

ペアで1分間話します。①自分の立場を言う ②理由を1つ言う ③相手に質問する ④返ってきた答えに反応する—この4つが入っていれば合格です。話題は当日ひきます。

パフォーマンステスト（やり取り） | 40人をどう回すか

回し方 3つのうちどれかを選ぶ（クラスの人数と持ち時間で決める）

教師ひとりて回す 1コマ	2人1組で前へ。1分×20ペア＝20分＋入替で約25分。残り25分は待機中の課題（下）に充てる
ALTと分担 半コマ	教室前方と後方に2会場。10ペアずつで約13分。評価のずれは、最初の3ペアを2人で同時に見て合わせる
タブレット録音 10分＋採点40分	全ペアが同時に録音（3分）。採点は放課後。40人×1分の再生＝40分かかるので、評価に使う回だけにする

待っている生徒の仕事 ここが空くと、教室が崩れます

- ・別の話題でペア練習（本番の話題は当日ひくので、練習は何回やっても不公平にならない）
- ・自己評価シートの記入（次に使いたい表現を1つ書く）
- ・初見読解ミニテストか速読ラダーを1枚（静かに進む・時間が読める・提出物にもなる）

評価 配点は生徒面（表）に刷ってあります＝規準を隠さない

その場で○△×を打つだけにします（点数を暗算しない）。○＝満点・△＝半分・×＝0で、合計は放課後に一度で出す。1人1分のテストで、聞きながら加算までやるのは物理的に無理があります。

記録 記録シート（座席順・その場は○△×だけ）

氏名（座席順）	立場	理由	質問	反応	1分	メモ

話題の漏れ対策

- ・話題は3セット用意し、待機順で配るセットを変える。1セットだと、後半の生徒が有利になります。
- ・先に終わった生徒は教室外に出さない。廊下で話題が伝わります（待機中の仕事があるのは、この対策でもあります）。
- ・評価に使う回は、同じ話題を翌日以降のクラスで使わない（続くときはセットを入れ替える）。

よくある失敗

1分が守れず、全体が押す	机にタイマーを置き、50秒で合図。切るのは教師の役目ですー生徒に任せると、上手なペアほど長くなります。
評価が甘くなる（全員○になる）	○△×はあったか・なかったかだけを見ます。上手さで迷い始めたら、その項目の基準が曖昧です。
原稿の暗唱になる	話題を当日ひけば暗唱は成立しません。質問と反応の2項目は、相手の発話がないと得点できない作りです。

テストに入れる

定期テストの評定に入れるときは、この1分で10点（上の配点そのまま）。学期に2回入れると、話す活動が「テストに出ないから後回し」になりません。観点は全項目が思考・判断・表現で、流暢さの1点だけが知識・技能です。

